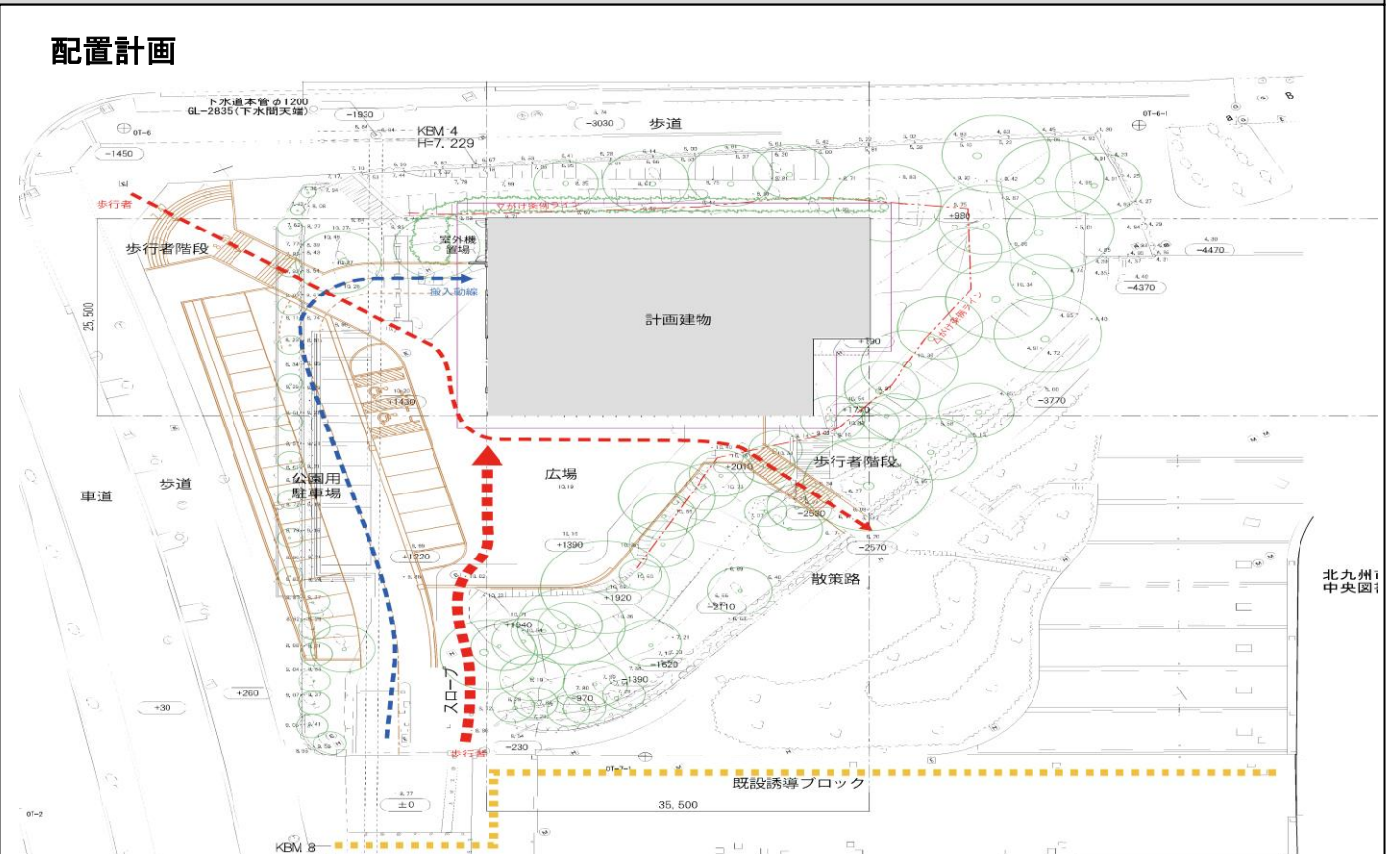


(仮称) 平和資料館の基本設計 (案) 概要版

【施設】



1 施設整備の基本方針

- 資料館としての性格を考慮した施設
- 人と環境にやさしい施設
- 周辺施設等との親和性がある施設
(具体的な取り組み)
 - ・市民から寄贈された資料等を保管・公開するための展示室や調査・研究に必要なスペースを用意
 - ・戦時下の暮らし等を紹介するストーリー性のある展示や資料閲覧ができるアーカイブ室を用意
 - ・周辺の歴史・文化的背景や自然環境を踏まえ、幅広い世代の方が訪れやすい、開放的な空間に整備
 - ・コンパクトな諸室構成を目指し、エントランスを多機能的に活用できるよう可動間仕切り壁を設置
 - ・バリアフリー化や日本語、英語等多言語に対応したサイン(案内)を用意
 - ・周辺施設の回遊性を図るため、既存の駐車場を確保する施設配置及び外構整備を実施

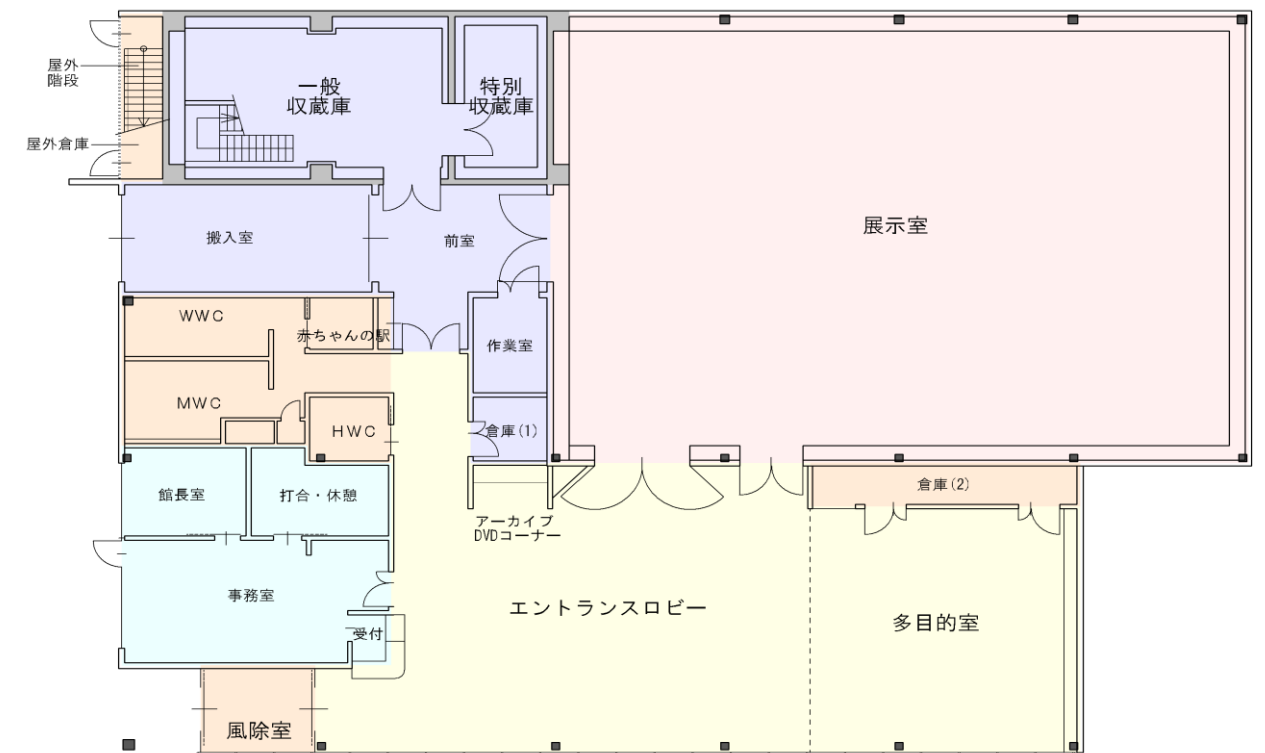
2 整備概要

- 建設場所：小倉北区城内4番(勝山公園中央図書館北側駐車場内)
- 延べ面積：約900㎡
- 規模：地上1階(一部2階建て)
- 構造：鉄骨造
- 工事費：約8億円(展示製作を含む)

3 整備スケジュール

- 平成31年度 工事開始
- 平成32年度 工事竣工(開館時期は工事の進捗により決定)

平面計画



※2階に、機械・電気室、一般収蔵庫を配置予定

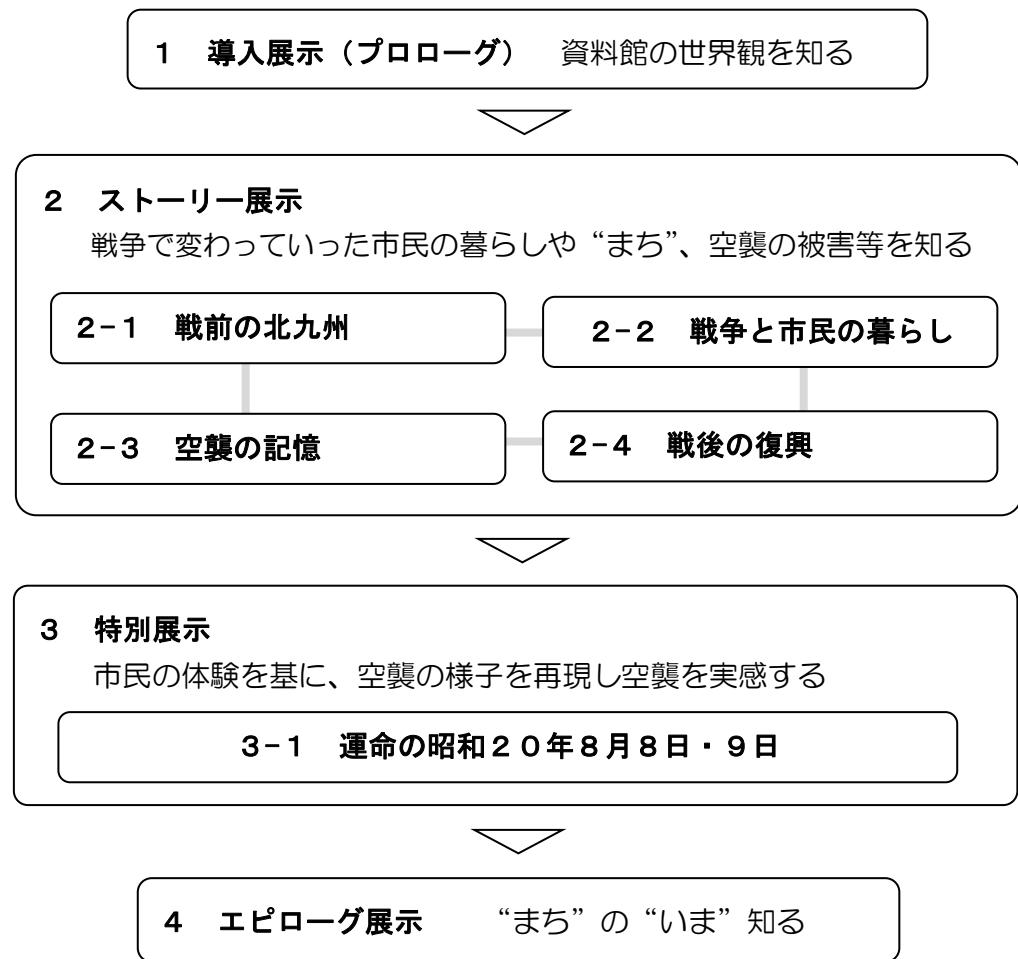
(仮称) 平和資料館基本設計 (案) 概要版

【展示：コーナー構成・展示設備】

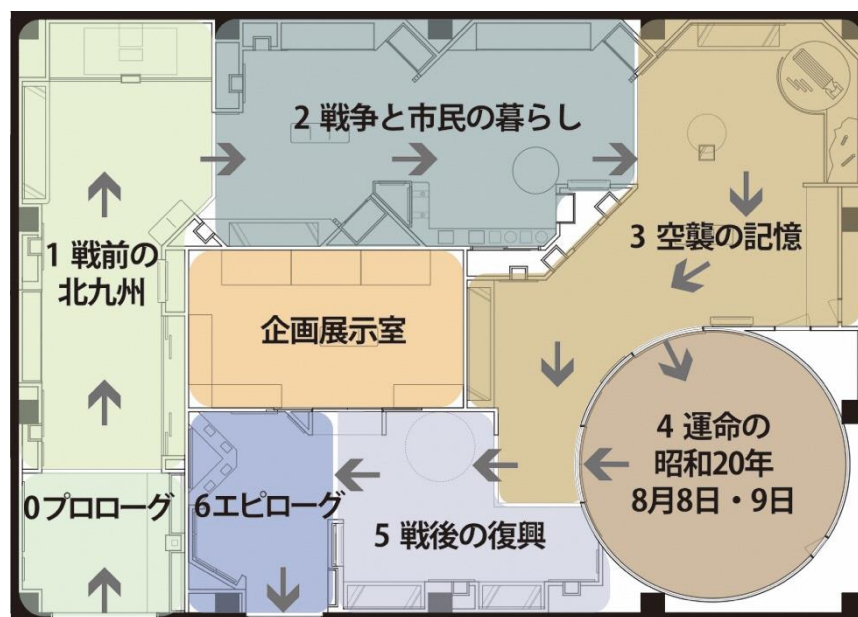
4 展示製作の基本方針

- 来館者が体験・体感でき、映像・音響設備を活用した効果的な展示
- 事実に基づいた正確で分かりやすい展示
- 子供たちの目線に立った展示
(具体的な取り組み)
 - ・事実に基づいた分かりやすく、心に残る展示を行うため、市民から寄贈された実物資料の展示に加え、模型の作成や映像・音響技術を駆使した展示や体験型展示を行う。
 - ・当時の人々の心情や暮らし、北九州の物語を共感できるストーリー性のある展示及びコーナー配置を行う。
 - ・ユニバーサルデザインの採用や多言語化等、来館者に応じた案内表示や鑑賞ツールの工夫を行う。
 - ・他都市の施設から借用した資料や当時の北九州の文化・風俗等をテーマにした期間限定の展示を行う企画展示室を設置する。

【展示の流れ】



5 展示室のレイアウト・主な諸室イメージ



1 導入展示 (プロローグ)



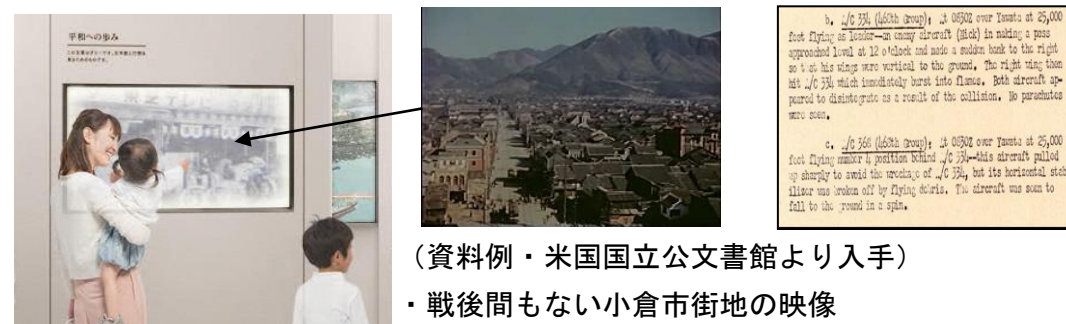
2-2 戦前の北九州

6 映像・音響等を活用した展示設備

- 小倉陸軍造兵廠を再現するプロジェクションマッピング (左端)
- 触れると資料解説の動画や言葉が浮き出すインタラクティブ展示 (中央・右端)



○各コーナーに資料検索用の画像検索モニター



(資料例・米国国立公文書館より入手)

- ・戦後間もない小倉市街地の映像
- ・いわゆる「体当たり勇士」による米軍被害報告書

- 戦時下の暮らしを体験的に理解するハンズオン展示
- 小倉陸軍造兵廠で製造されていた風船爆弾等の模型展示
- 来館の感想等をタッチパネルに掲示することができる参加型映像装置
- 戦後の復興を遂げた“まち”の歩み等を紹介するマルチビジョン映像装置



2-2 戦争と市民の暮らし



2-3 空襲の記憶



2-4 戦後の復興

4 エピローグ展示

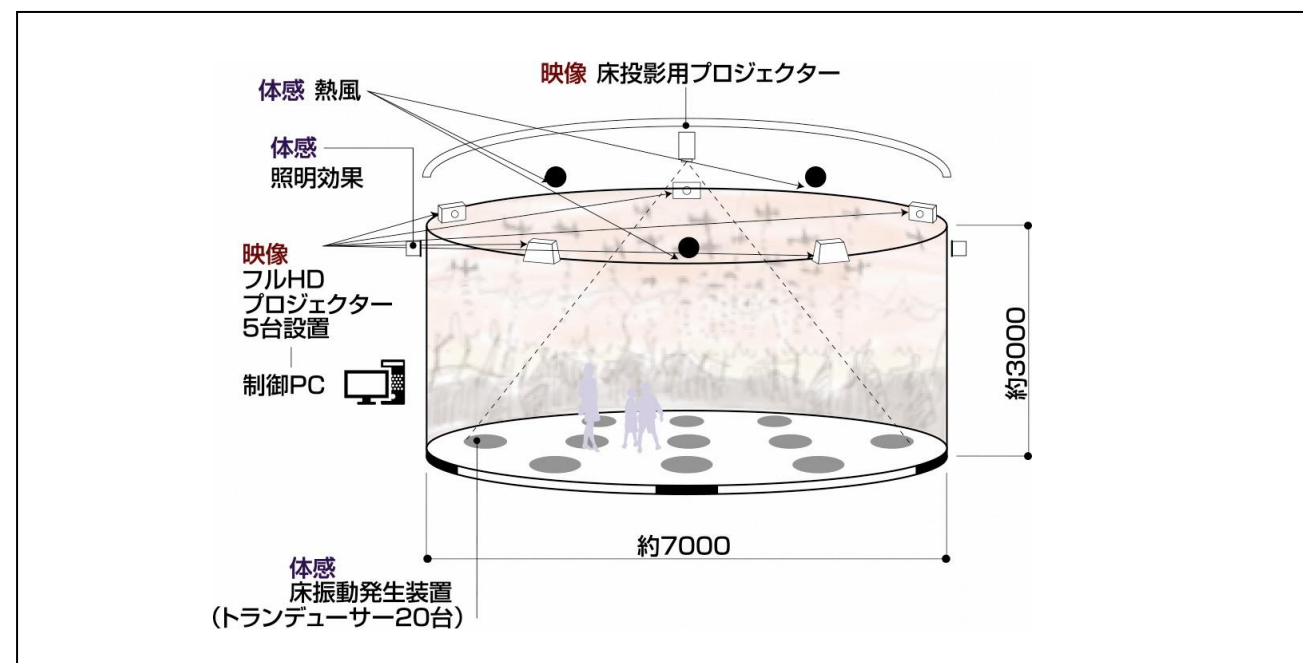
7 特別展示のイメージ

幅広い世代の来館者が、体感的に「当時の記憶を追体験」できる展示

- ・市民の戦争体験に基づき、昭和20年8月8日・9日の北九州のまちの姿を再構築
- ・没入感のある映像に加え、音や振動等を感じる演出により、空襲等を仮想体験できる「360度映像展示システム」を導入



○システム構成



○展示概要

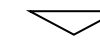
昭和20年8月8日の八幡の空襲から翌9日に原子爆弾を搭載したB29が小倉上空を飛行した経緯を市民の戦争体験を基に、ストーリーを展開する。

当時の街並みや生活の様子、空襲の被害等をCG等で再現し、人々の体験を五感で追体験できるものとする。

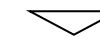
○展示ストーリーの例(子どもの目を通した8月8日・8月9日)

(8月8日)

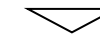
■シーン1：朝、国民学校2年生の私は小学校へ登校した



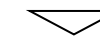
■シーン2：空襲警報のサイレンが鳴り、空にB29の編隊が来襲



■シーン3：「ザー」という大きな音とともに、焼夷弾が落ち、まちに火の手が上がる

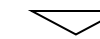


■シーン4：多くの家屋が焼け、その煙が上空へと昇り、ススを含んだ黒い雨が降った



(8月9日)

■シーン5：2、3機のB29が飛来、小倉上空を2、3回旋回し消えた



■シーン6：11時2分、長崎に原子爆弾が投下された

(仮称) 平和資料館の基本設計 (概要版)

【展示：展示資料の例】

■「戦前の北九州」関係

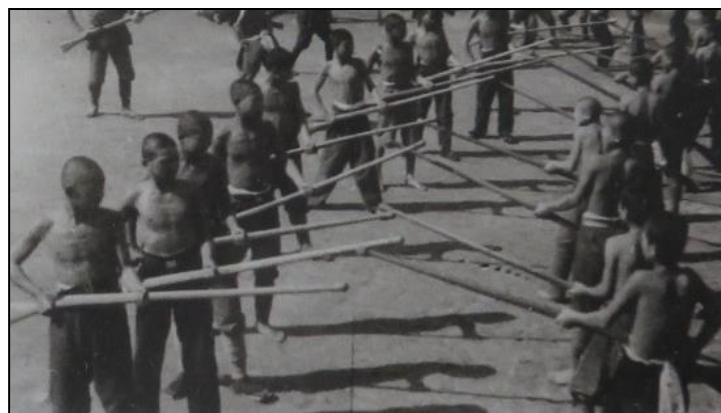


(上) 小倉陸軍造兵廠作業員の退所風景 (絵葉書)
(昭和11年)

(右) 菊屋百貨店 (玉屋) の開店チラシ (昭和13年)



■「戦時下の市民の暮らし」関係



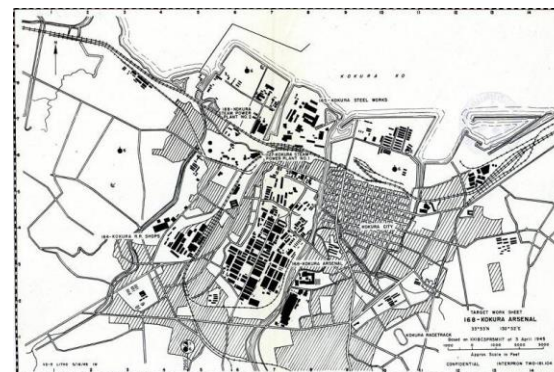
(上) 錦町小学校 (現「海青小学校」) での訓練の様子を写した写真 (昭和19年)

(右) 「家庭防空ポスター」
防空意識の啓発のために作成された。
(昭和11年)

(右下) 国策湯丹保 (ゆたんぼ)
金属回収政策によって、金属が不足したため、
作られた陶器製の代用「湯たんぼ」



■「空襲の記憶」関係



(左) 戦時中、米軍が作成した小倉陸軍造兵廠に関する地図 (昭和20年4月作成)



(右) 昭和19年8月20日の八幡空襲の際に撮影された写真 (戸畑地区の被害の様子)。

※いずれも米国国立公文書館から入手

■「戦後の復興」関係



(左) 戦後、井筒屋小倉店から東方向を写した写真 (小倉北区)。

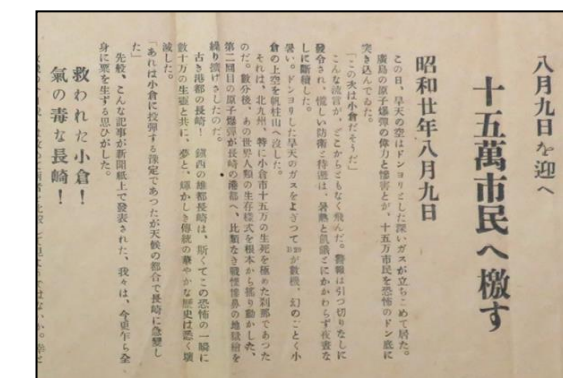


(右) 破壊された家の再建に取り組む人々を写した写真 (八幡東区)。

※いずれも米国国立公文書館から入手



(左) 昭和35年 小倉陸軍造兵廠跡地 (現「勝山公園」) で開催された「小倉大博覧会」の様子



(右) 昭和21年 当時の小倉市長が発表した長崎の原子爆弾についての告辞文